

独思録：「今年の年越し派遣村」(12/27)

小西 秀俊

esq-info@esquare-kamakura.net

今年も年越し村が各地で開設されています。

昨年は労働組合の連合、全労連、全労協の、通常は、運動の在り方をめぐって考えが異なるとして統一戦線を組むことはない3つの労組が、また、非正規労働者の支援活動で実績のある「派遣ユニオン」「首都圏青年ユニオン」なども参加して開設されました。

今年も、東京都などが開設したいいわゆる「公設年越し村」で、ハローワークなどで求職登録した人だけが対象となっているようです。

景気低迷のさなか、政府は「派遣村を繰り返すな」を合言葉に宿泊場所の確保など対策を打っていますが、雇用環境は昨年より悪く、再び路上に失業者があふれる懸念もあると云われています。

樋口一葉の小説に「大つごもり」というのがあります。話は、
「井戸は車にて綱の長さ十二尋（ひろ）、勝手は北向きにて師走（しはす）の空のから風ひゆうひゆうと吹ぬきの寒さ、おゝ堪えがたと竈（かまど）の前に火なぶりの一分は一時にのびて、割木（わりぎ）ほどの事も大臺（おほだい）にして叱りとばさるゝ婢女（はした）の身つらや、……」

という行で始まり、

「……世間に下女つかふ人も多けれど、山村ほど下女の替る家は有るまじ、月に二人は平常（つね）の事、三日四日に歸りしもあれば一夜居て逃出しもあらん、開闢（かいびやく）以来を尋ねたらば折る指に彼の内儀さまが袖口おもはるゝ、思へばお峰は辛棒もの、あれに酷く當たらば天罰たちどころに、此後は東京廣しといへども、山村の下女に成る物はあるまじ、感心なもの、美事の心がけと賞めるもあれば、第一容貌（きりやう）が申分なしだと、男は直きにこれを言ひけり。

秋より只一人の伯父が煩ひて、商賣の八百や店もいつとなく閉ぢて、同じ町ながら裏屋住居に成しよしは聞けど、六づかしき主を持つ身の給金を先きに貰へば此身は賣りたるも同じ事、見舞にと言ふ事も成らねば心ならねど、お使ひ先の一寸の間とても時計を目當にして幾足幾町と其しらべの苦るしさ、馳せ抜けても、とは思へど悪事千里といへば折角の辛棒を水泡（むだ）にして、お暇ともならばや彌々（いよいよ）病人の伯父に心配をかけ、瘦世帯に一日の厄介も氣の毒なり、其内にはと手紙ばかりを遣りて、身は此處に心ならずも日を送りける。……」

と続きます。

今も昔も世の常なのでしょうか、労働者にとって

「会社に勤めている身にとって給金を貰へば此身は賣りたるも同じ事、不景気で解雇に当たり不当と言ふ事も会社を思えば、成らねば心ならねど、勤め先の一寸の間とても時計を目當にして幾頁幾冊と其しらべの苦るしさ、遣り抜けても、とは思へど僅かなミスといへ

ども折角の辛棒を水泡（むだ）にして、お暇ともならばや彌々（いよいよ）身重の妻に心配をかけ、瘦世帯に一日の厄介も氣の毒なり。」

と云うことでしょうか。

FNNのニュースでは、2008年の派遣村に続き訪れたという男性が「派遣切りにあったそうですね?」「派遣切りです。路上生活だと夜が寒くて、寝られない。寒いから歩いてないといけなから、足がこんなになっちゃって。マメになっちゃって、痛くて!」と話したと伝えています。

しかし、毎年、師走から正月という歳の節目になると、どうしても、年越し派遣村などがマスコミに大きく取り上げられます。

しかし、菅国家戦略担当相が「やっぱりシェルター的なのが、平常時の方が足りないんですかね」と述べるだけでなく、常に「派遣村を繰り返すな」を合言葉に、有効な景気回復策を図って欲しいものです。

読売：「東京・日比谷公園に「年越し派遣村」開設、失職者を支援」(08/12/29)

失業と同時に住まいをなくした派遣労働者や期間従業員のため、31日～1月5日朝まで東京・日比谷公園で「年越し派遣村」が開設される。

非正規労働者を支援している労働組合やNPO法人などで行う実行委員会の主催。

31日～1月4日の午後1時～同6時、弁護士が労働相談や生活相談に応じるほか、31日の昼食から1月5日の朝食まで炊き出しを実施する。



受付(日比谷公園)



集会(日比谷公園)



テント群(日比谷公園)

<樋口一葉(1872-1896)>

小説家。東京府第二大区小一区(現・千代田区)内幸町生まれ。本名夏子(戸籍名奈津)。

中島歌子に歌、古典を学び、東京朝日新聞記者の半井桃水の指導を受け小説を書くようになり、1892年、半井桃水が主宰した文芸雑誌「武蔵野」に処女作『闇桜』を発表。

生活苦により住む場所を転々とするが、1894年、小説に専念するため本郷区丸山福山町(現・文京区西片)に移る。ここで一葉の代表作である『大つごもり』『にごりえ』『十三夜』『わかれ道』『たけくらべ』を執筆する。



『たけくらべ』は、雑誌「めざまし草」の合評欄「三人冗語」で森鷗外、幸田露伴、斎藤
緑雨に絶賛される。

代表作に、『闇桜』『五月雨』『うもれ木』『暁月夜』『雪の日』『琴の音』『やみ夜』など。

春秋：「たき火にある優しい力」(12/22)

我々の遠い先祖は、冬の来る前に穴を掘り、熊（クマ）や狐（キツネ）やの獣と共に、小さくかじかまつて生きてへていた。おそろしい冬において、何よりも人々は火を愛した。詩人の萩原朔太郎は、たき火を囲む心を「先祖の情緒の記憶」と呼んだ。

道端のたき火を見かけなくなって久しい。環境や健康への配慮から、東京都が原則禁止の条例をつくったのが10年前。人と物がひしめく都会で煙を上げれば、たしかに迷惑だろう。集めた落ち葉は、運び去るのがエチケットとなった。それでもどこかから木が焦げる香りが漂うと、懐かしい冬の記憶がよみがえる。

学校の帰り道、垣根の曲がり角でたき火を見つける。北風がびいふう吹いている。あたりだろうか、あたりよ。子供たちが相談するのは、暖かさに慣れると立ち去り難くなると知っているからだろう。知らない大人に交じって手をかざす。黙っていても仲間のような気がしてくる。そんな優しい力がたき火にはある。

雇用にも木枯らしが吹いている。職を探して寒空の下を歩く人が増え、政府は緊急対策の策定に忙しい。暖房が利いた家に、運よくたどり着く人もいるだろう。ひとときの暖を求めて、公的な支援に足をとめる人もいるだろう。温かく迎え入れて、長居をさせず背中を押して送り出す。そんなたき火があればいい。

< 萩原朔太郎 (1886-1942) >

詩人。群馬県前橋市生まれ。

口語体の自由詩にとぎすまされた感覚的表現をもちこんで、新しい詩風を確立した。

北原白秋に師事し、1917年2月刊行の処女詩集『月に吠える』で全国に名を知られるようになる。

大のミステリーファンとして知られており、エッセイ「探偵小説に就いて」で江戸川乱歩を賞賛、後に直接親交を結び、乱歩の『探偵小説四十年』中に、朔太郎が直接乱歩に賞賛の言葉を贈った旨の回想がある。

また、作曲もいくつか試みており、室生犀星の詩による合唱曲『野火』、マンドリン曲"A Weaving Girl"（機織る乙女）などが残されている。

代表作に詩集『月に吠える』、短編小説『猫町』（以上、青空文庫に登録済み）、『青猫』など。



天声人語：「財政再建と成長の方途」(12/27)

イモムシがチョウになる前、サナギという段階がある。じっとしているうちに、幼虫の体は成虫のそれへと化ける。一変の予感と、先が見えない不安。初めての「鳩山予算」も、どこか危なげな仮の姿に思える。

道路やダムを削り、子ども手当などで社会保障費が膨らんだ。コンクリから人へ、命を守る予算という。歳出が最大となる一方、税収は25年前の水準に落ち込み、国債発行や「埋蔵金」で帳尻を合わせた。

一般会計は9兆2992億円。9と2の連なりに「苦肉」の文字が浮かぶ。ガソリンの減税を見送るなど、金科玉条に見えたマニフェストも傷めた。子どもなし、車ありの喫煙者あたりは、鳩山首相に裏切られた思いだろう。

だが、これは急場しのぎの「サナギ予算」である。生後100日の政権に満点を求めるのは、イモムシに飛んでみせろと迫るにも等しい。重ねた無理と迷走は、欲張りな公約だけが理由ではない。旧政権のお荷物を背負い、景気に足を取られながらも年内に形にしたのだから、まあまあだ。

それにしても、国と地方の借金が来年度末で862兆円とは恐ろしい。このうえ国債を乱発すれば金利が上がり、住宅ローンや企業の資金繰りを圧迫しかねない。埋蔵金は掘り出せばなくなる。

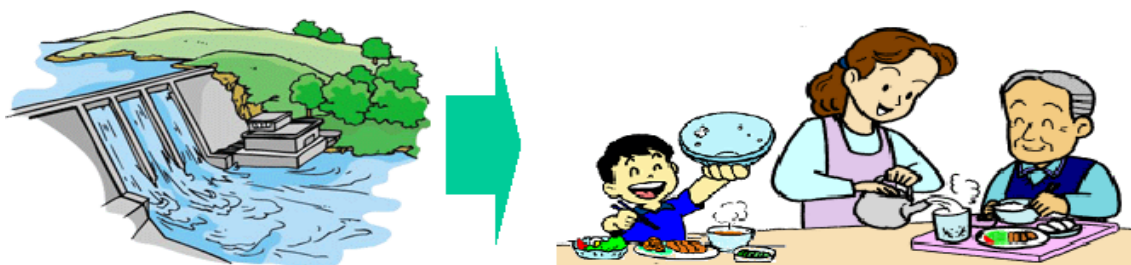
むこう1年は、新政権の、というより日本の行く末を占う正念場である。財政再建と成長の方途を、タブーや聖域なしに固める時だ。その一步となる次の予算で、美しく、力強いチョウの姿を待ちたい。サナギから、太ったイモムシが出てくる悪夢は許されない。

産経：「コンクリートから人へ 雇用に大きな不安」(12/25)

平成22年度予算で、公共事業費は18・3%減と過去最大の削減幅となった。前原誠司国土交通相が「コンクリートから人へ」を掲げた鳩山政権の“切り込み隊長”としての役割を果たした形だ。しかし、景気低迷が続く中、公共事業が景気の下支え役になっていただけに、雇用や地方経済への影響が懸念される。「人へ」の部分では、きめ細かい施策が求められそうだ。

「現在の日本が置かれている状況を考えてみれば、公共事業は抑制せざるをえない」

前原国交相は就任時から訴え続けた通り、公共事業にかつてないほど大幅な切り込みを入れた。道路に関しては原則として新規事業をゼロに、ダム関係予算も31事業の「凍結」に踏み切った。空港や港湾関連にもさらなる「選択と集中」を進めた。



編集手帳：「てんでしのぎ」(12/31)

「てんでしのぎ」というらしい。てんでバラバラの「てんで=各自」、他人の手を借りず、自力で苦難に対処することを指す。早坂暁さんの「夢千代日記」(大和書房)に教えられた。

海鳴りのとどろく山陰の温泉場を舞台に、テレビでは吉永小百合さんの演じた主人公の芸者・夢千代が語る。冬の日本海はきびしくて、沖に出る船は、みんなてんでしのぎです。他の船を助けることが出来ません。

仕事の悩みにせよ、私生活の迷いにせよ、肉親も親友も手取り足取りで舵(かじ)とりはしてくれない。人は誰もが「てんでしのぎ」の船だろう。

働きたくても働けない若者が大勢いて、残忍な事件には心を痛み、新型インフルには身を縮め、明るい出来事は遼君や原ジャパングらいしか浮かんでこない一年が暮れる。傷だらけの船体を曳航(えいこう)し、お国なまりと母の手料理が待つふるさとのドックに帰港した人もいるに違いない。

年が明ければ心機一転、また出航のときが訪れる。元日は満月という。月明かりの青い闇を海に、家々にともる窓の灯(ひ)をいさり火に見立て、今宵は除夜の鐘に祈ろう。失意の船に、海路の日和あれ。

< 早坂暁 (1929-) >

小説家、脚本家。本名富田祥資(トミタ・ヨシスケ)。愛媛県松山市(旧北条市)生まれ。海軍兵学校在学中に終戦。日本大学芸術学部演劇学科卒。

業界新聞編集長を経て『ガラスの部屋』(1961年、日本テレビ)で脚本家デビュー。以後、1000本以上の映画やドラマの脚本、小説を手がけ、人間をテーマにした独自の作風を築く。

大学時代に銭湯でたまたま渥美清と知り合い、渥美清主演のテレビドラマ「泣いてたまるか」や、土曜ワイド劇場の第1回作品の「田舎刑事」シリーズなどの脚本を書いている。

代表作は『夢千代日記』『花へんろ』『天下御免』『ダウンタウン・ヒーローズ』『華日記』『戦艦大和日記』など。



余録：「借金の山に風情はあるか」(12/26)

「大晦日（みそか）首でもとってくる気なり」。借金の取り立てをめぐる攻防の一日だった昔の大晦日だ。首でもなんでも取ってきてやると掛け取りが意気込めば、取られる方も負けていない。「大晦日首でよければやる気なり」。

借金取りの趣味に話を合わせて支払いをごまかしてしまうのは落語「掛取万歳」である。半年ためた家賃を取りに来た狂歌好きの大家には「何もかもありたけ質に置炬燵（おきごたつ） かかろう縞（しま）の布団だになし」「貧乏をしても下谷の長者町 上野の鐘のうなるのを聞く」と狂歌で対応した。

決め手になったのは「貧乏をすれどこの家（や）に風情あり 質の流れに借金の山」の一首だ。大家もこれには「貧乏もまた風流になるな」と感心し「貸しはやる借りはとらるる世の中に なにとて大家つれなかるらん」と支払いを待ってやる。

大晦日の掛け取り騒動は姿を消した現代だが、例年歳末に気になる「借金の山」の家のあるじは今年入れ替わった。国債発行額は44・3兆円、一般会計の総額92・3兆円と過去最大規模となる鳩山政権の来年度政府予算案が閣議決定された。

一時は年内編成を危ぶまれていた予算案で、歳出の膨張は子ども手当などマニフェストにもとづく新政権の目玉政策によるものだ。一方、国債発行額は予算編成の基本方針とした「44兆円以内」をやや上回ったが、まずは目標の線に収めた。

もっとも税収は前年度並みの37・4兆円にとどまる見通しである。あとは埋蔵金頼りのいわばその場しのぎの帳尻合わせだ。さてこの膨らむ支出と借金の山に「風情」はあるのかないのか。こちらの「風情」とは、国民が希望を託せる国の将来ビジョンのことだ。

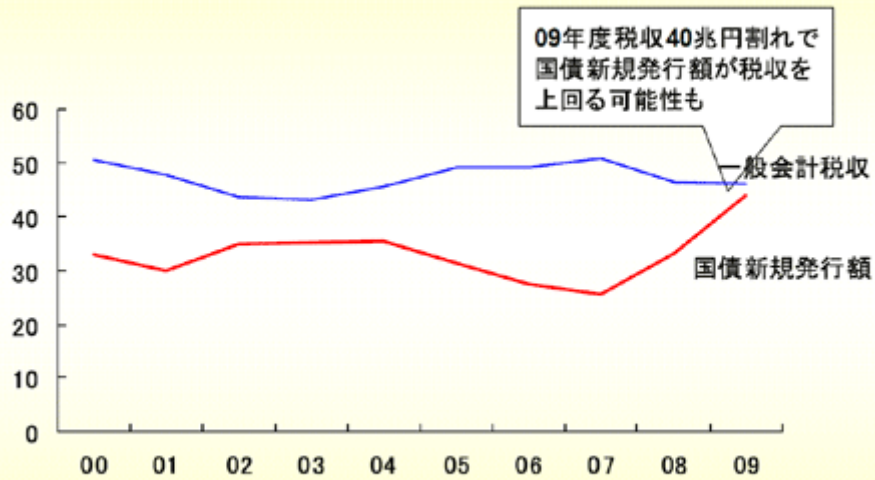
日経：「家計重視借金膨らむ、国債44兆円歳入の半分 10年度予算案」(12/25)

政府は25日、2010年度予算案を閣議決定した。全体の規模を示す一般会計総額は4.2%増の92兆2992億円で、当初予算段階で過去最大となった。政権の看板政策である子ども手当の創設などを盛り込み、「家計重視」を前面に出した。財源を賄うため、09年度当初予算より約11兆円多い44兆3030億円の新規国債を発行。10年度末の国・地方の借金残高も膨れ上がり、借金頼みの構図が一段と鮮明になった。

政府は10年度予算案と09年度第2次補正予算案をともに年明けの通常国会に提出する。今年度内の成立を目指す。

政権初の予算編成は民主党が衆院選マニフェスト（政権公約）で掲げた「予算の全面組み替え」による無駄排除が思うように進まないなかで、財源確保に苦心した。子ども手当など社会保障費増大に対応し、国債増発や特別会計の剰余金など「霞が関埋蔵金」に依存した面が強い。予算がどれだけ借金頼みかを示す国債依存度は10.4ポイント高い48.0%と過去最高を更新。10年度末の国の借金である国債残高は637兆円程度となる。

一般会計税収と国債新規発行額の推移 (兆円、年度)



注: 08年度までは決算、09年度は補正後、09年度税収は見込み

資料: 財務省

© BBT総合研究所